介護職員初任者研修
各科目シラバス

1　職務の理解（8時間）　　授業形式：講義

目　　標	
・これからの介護職が目指すべき、その人の生活を支える等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持つ。	
内　　容	
1多様なサービスの理解（4時間）	・介護保険サービス（居宅サービス・施設サービス） ・介護保険外のサービス
2　介護職の仕事内容や働く現場の理解（4時間）	・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ （視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における実習・見学等） ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の流れとチームアプローチ ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携

2　介護における尊厳の保持・自立支援（１２時間）　　授業形式：講義

目　　標
・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点・姿勢を身につける。 ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、ＱＯＬ、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を身につける。

内　　容	
1　人権と尊厳を支える介護 （６時間）	①　人権と尊厳の保持 ・個人としての尊重 ・アドボカシー ・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感 ・尊厳のある暮らし ・利用者のプライバシーの保護 ②　ＩＣＦ ・介護分野におけるＩＣＦ ③　ＱＯＬ ・ＱＯＬの考え方 ・生活の質 ④　ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの考え方 ⑤　虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止 ・高齢者虐待防止法 ・高齢者の養護者支援 ⑥　個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
2　自立に向けた介護 （６時間）	①　自立支援 ・自立及び自律支援 ・残存能力の活用 ・動機の欲求 ・意欲を高める支援 ・個別性／個別ケア ・重度化防止 ②　介護予防 ・介護予防の考え方

3　介護の基本（8時間）　　授業形式：講義

目　　標
・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を身につける。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようになる。

内　　容	
1　介護職の役割、専門性と多職種との連携 （2時間）	① 介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 ② 介護の専門性 ・重度化防止及び遅延化の視点 ・利用者主体の支援体制 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠ある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム ③ 介護に関する職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担
2　介護職の職業倫理 （2時間）	職業倫理 ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度） ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重
3　介護における安全の確保とリスクメンジメント （2時間）	① 介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ・リスクとハザード ② 事故予防、安全対策 ・リスクマネジメント ・分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等） ・情報の共有 ③ 感染対策 ・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・「感染」に対する正しい知識
4　介護職の安全 （2時間）	介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い、うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症

4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（１２時間）　　授業形式：講義

目　　標	
・介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。	
内　　容	
1　介護保険制度 （４時間）	① 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 ② 仕組みの基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 ③ 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定
2　医療との連携とリハビリテーション （４時間）	・医行為と介護 ・訪問介護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念
3　障がい者総合支援制度およびその他制度 （４時間）	① 障がい者福祉制度の理念 ・障がいの概念 ・ＩＣＦ（国際生活機能分類） ② 障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付 ・訓練等給付の申請から支給決定まで ③ 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業

5　介護におけるコミュニケーション技術（8時間）　　授業形式：講義

目　　標
・高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識する。 ・コミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。

	内　　容
1　介護におけるコミュニケーション （4時間）	① 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーションに対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 ② コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語コミュニケーションの特徴 ③ 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へのいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ④ 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障がいに応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術
2　介護におけるチームのコミュニケーション （4時間）	① 記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等） ・ヒヤリハット報告書　　・5W1H ② 報告 ・報告の留意点 ・連絡の留意点 ・相談の留意点 ③ コミュニケーションを促す環境 ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場 ・ケアカンファレンスの重要性

6　老化の理解（８時間）　　授業形式：講義

目　　標
・加齢及び老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

内　　容	
1　老化に伴うこころとからだの変化と日常（４時間）	①　老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応（反射）の変化 ・喪失体験 ②　老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋、骨、関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響
2　高齢者と健康（４時間）	①　高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折 ・筋力の低下と動き ・姿勢の変化 ・関節痛 ②　高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障がい（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患） ・循環器障がいの危険因子と対策 ・老年期うつ病症状 ・誤嚥性肺炎 ・病状の小さな変化に気づく視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい

7　認知症の理解（８時間）　　授業形式：講義

目　　標	
・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。	
内　　容	
1　認知症を取り巻く環境 （２時間）	認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点（できることに着目する）
2　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 （２時間）	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義 ・物忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理（脱水、便秘、低栄養、低運動の防止、口腔ケア） ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
3　認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 （２時間）	①　認知症の人の生活障がい、心理及び行動の特徴 ・認知症の中核症状 ・認知症の行動、心理症状（ＢＰＳＤ） ・不適切なケア ・生活環境の改善 ②　認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界に合わせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考える ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア
4　家族への支援 （２時間）	・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）

8　障がいの理解（4時間）　　授業形式：講義

目　　標	
・障がいの概念とＩＣＦ、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。	
内　　容	
1　障がいの基礎的理解 （2時間）	① 障がいの概念とＩＣＦ ・ＩＣＦの分類と医学的分類 ・ＩＣＦの考え方 ② 障がい者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
2　障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 （1時間）	① 身体障がい ・視覚障がい ・聴覚、平衡障がい ・音声、言語、咀嚼障がい ・肢体不自由 ・内部障がい ② 知的障がい ・知的障がい ③ 精神障がい（高次脳機能障がい、発達障がいを含む） ・統合失調症、気分（感情障がい）、依存症などの精神疾患 ・高次脳機能障がい ・広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい ④ その他の心身の機能障がい
3　家族の心理、かかわり支援の理解 （1時間）	家族への支援 ・障がいの理解、障がいの受容支援 ・介護負担の軽減

9　こころとからだのしくみと生活支援技術（９２時間）　　授業形式：講義及び演習

目　　標	
・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅、地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。	
内　　容	
1　基本知識の学習 （１２時間）	① 介護の基本的な考え方（４時間） ・倫理に基づく介護（ＩＣＦの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ・法的根拠に基づく介護 ② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解（４時間） ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解（４時間） ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
2　生活支援技術の学習 （６６時間）	④ 生活と家事（６時間） ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ⑤ 快適な居住環境整備と介護（６時間） 快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者及び障がい者特有の居住環境整備 ・福祉用具に関する留意点と支援方法 ⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（６時間） ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 ⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（８時間） ・移動及び移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動及び移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者、介護者にとって負担の少ない移動及び移乗 ・移動及び移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 ⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（１０時間） ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備 ・食事に関連した用具 ・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 ⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介

	護（８時間） ・入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（１０時間） ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（６時間） ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ⑫ 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護（６時間） ・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ ・生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援
３　生活支援技術演習 （１４時間）	⑬ 介護過程の基礎的理解（６時間） ⑭ 総合生活支援技術演習（８時間）

１０　振り返り（６時間）　　授業形式：講義及び演習

目　　標	
・全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成や学習課題の認識を図る。	
内　　容	
１　振り返り （４時間）	・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 （利用者の状態像に応じた介護と介護過程） （身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性） （チームアプローチの重要性）など
２　就業への備えと研修修了後における継続的な研修 （２時間）	・継続的に学ぶべきこと ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるよう事業所等における事例（Ｏｆｆ－ＪＴ，ＯＪＴ）を紹介